

福井県内科医会学術講演会

平成26年12月6日(土)

特別講演2

『高血圧治療の新たな旅立ち ～愛の目盛を考える～』

旭川医科大学 内科講座 循環・呼吸・神経病態内科学分野

長谷部 直幸 先生

講演会の座長を務めて

2013年12月18日、米国の「高血圧治療ガイドライン」の改訂第8版、通称「JNC 8」が10年ぶりに発表された。あまりの時間のかかりすぎに「JNC、8 (eight) は Late」と陰口をたたかれたことが記憶に新しい。そしてなによりも、従来の基準を覆して60歳以上なら降圧目標値は150/90mmHgで良いとした点なども物議を醸し出した。一方で、米国における他のガイドライン、すなわちASH/ISH版、AHA/ACC/CDC版、と合わせ3つのガイドラインがそれぞれ異なる降圧目標値を推奨し混乱を増長した。

本邦においても、2014年4月4日に日本人間ドック学会と健康保険組合連合会で作られる検査基準値及び有用性に関する調査研究小委員会が、健康診断での基準値についての新しい基準値を取りまと

めたという報道があった。血圧値に関して、収縮期血圧は 147mmHg まで、拡張期血圧は 94mmHg までを「正常」とするという内容であった。この報道でも降圧療法を受けている患者さん方に不安を与え、日常診療においていささか混乱を招いた。

このような流れの中で、「高齢者の血圧管理は緩めでよい」が一人歩きしないか、さらには患者の自己判断による降圧治療中断が危惧された。そこで、日本高血圧学会も JSH2014 に基づいた血圧管理を継続するよう再三コメントを発表したのである。

本講演会で長谷部先生は、循環・呼吸・神経病態内科学分野と広範囲にわたる講座の教授らしく、虚血性心疾患から脳卒中まで広範囲な動脈硬化性疾患の予防のためには、従来どおりの厳格な血圧コントロールが重要であることを強調された。また、そのためにはアイミクスに代表される ARB+Ca ブロッカーの合剤が有用であると結ばれた。

ウイット（一部はおやしギャグ？）に富んだ講演内容はとても楽しく拝聴できました。

文責

福井循環器病院 水野清雄